

# のんのさま ちきゅう地球の子ども こもりうたの子守唄

## ■楽曲データ

歌詞：東村美穂 作詞

楽曲：中村八大 作曲

発表：TBS ラジオ 1983 年

初演：1983 年 TBS ホール

初出：『佛教音楽』第 10 号 仏教音楽研究所 1984 年

管理番号：M1127

## ■創作の経緯

TBS ラジオ「六輔七轉八倒」で、子守唄の歌詞を公募。1983（昭和 58）年、同番組の第 2 回子守唄大賞作として発表。発表時のギター伴奏版に加え、仏教音楽研究所からの依頼により、作曲者自身がピアノ伴奏版を制作。

## ■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第 2 巻収録

底資料：『浄土の音楽集成 仏教讃歌 1 ほとけさまの讃歌』同朋舎出版 1994 年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

## ■解説

「ののさま」「のんのさま」。懐かしい言葉ですね。幼い頃、初めて仏さまを拝む時、「あれがののさまですよ」「のんのさまにおててを合わせましょうね」というやさしい言葉を聞いたような気がします。あれは、母のひざの上だったのでしょうか。それともおじいちゃん、おばあちゃんに抱かれてでしたのでしょうか。遠い昔のあの時から、私は仏の子として育てられていたのですね。

「ののさま」を辞書（『岩波国語辞典』第 2 版）で調べてみますと、「ののさま」は幼児語で、「僧が仏に経を上げるのが『のんのん』と聞こえるところから出た」と説明されています。幼い子らが、小さな両手を合わせてほとけさまにお礼をし、「ののさまありがとう」などとお参りしている光景に出会いますと、自然に心が和んできますね。

この曲には、「地球の子どもの子守唄」というサブタイトルがついていますように、子どもを背中に負い、あるいは両手に抱いてあやす子守唄です。「この子の〇〇まもりゃんせ」という言葉の繰り返しの中に、母親の深く温かな愛情が感じられます。この曲は、永六輔さんの出演する TBS のラジオ番組「六輔七縛八倒」が、1983（昭和 58）年に作詩を公募してできました。東村美保さんのこの作品が、

第2回子守唄大賞を受賞しています。

#### ◆楽曲について

作詞の東村美保さんについての詳しいことはわかりません。作曲は、坂本九さんの歌う「上を向いて歩こう」（「スキヤキ・ソング」として世界中でヒットしました）ほか、たくさんのポピュラーソングを作曲した中村八大（1931～1993）さんです。中村さんは、中国・青島に生まれ、小学3年からピアノを学び、早大高等学院時代には天才ジャズピアニストと謳われました。のち永六輔氏と知り合い、詩と曲を持ち寄って生まれた《黒い花びら》が1959（昭和34）年の第1回日本レコード大賞を受賞しました。ほかに《遠くへ行きたい》《こんにちは赤ちゃん》などのヒット曲があります。

#### ◆詩について

詩は、日常使う平易な言葉で表現され、しかも個人的な願いに止まることなく、世界中の子どもへと広がっています。

「まもりゃんせ」という言葉が繰り返し出てきます。意味から見ると、ほとけさまに「まもってください」とお願いしているように聞こえますが、私たちはすでに仏さまからまもられていることを忘れないようにしましょう。

「七つの海に虹の橋を架けて、世界をつなごう手をつなごう」と呼びかけています。スケールの大きな子守唄となりました。

#### ◆歌い方について

- ①子どもを抱いてあやすような気持ちで歌いましょう。
- ②6小節の2分音符「ま」の発音に注意しましょう。
- ③7小節からの8分音符の歌い方をなめらかに。8分音符の重みや深さは、言葉によって少しずつちがいます。
- ④21・22小節の長い音（7拍）が下がらないようにしっかり音程を保ちましょう。
- ⑤23・31小節のラ→レの音程をきっちり取りましょう。
- ⑥24・32小節と25・33小節の8分音符をていねいに歌うように。二つ並んだ8分音符の前の音符をいくぶん長めで。

#### ◆用途など

若いお母さん方に、ぜひ歌っていただきたいと思います。若婦人（女性）会の例会などで歌ってください。日曜学校や子ども会で親子一緒に歌うのもよいでしょう。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No.41（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第168号収録）を加筆・修正の上、転載。